

# 千刈狸の呟き

## ～ 言葉の力 ～

「言葉の使い方」について学習しているAさんと先生の会話です。

Q：昨日に引き続き、「言葉の使い方」について学習しましょう。日常生活の中では、形の決まった言い方によってコミュニケーションをとる事がありますね。

どんな時に、どんな言葉が使われていますか？

A：私は、二つのことを考えました。  
一つ目は、あいさつの言葉です。

Q：あいさつの言葉にはどんな働きがあると思いますか？

A：心と心をつなぐ働きがあると思います。  
でも、新型インフルエンザなどの未曾有の感染症などが大流行すると、まずこの事からできなくなります。

Q：どうしてできなくなるのですか？

A：普段のように挨拶をする余裕がなくなるからです。

Q：心と心をつなぐことができなくなるということですか？

A：確かにそんな場面もありました。  
自分自身に明日があるのかどうかも分からなくなるほどの状況もありました。

Q：それは、大変でしたね。  
もう一つはどんな事を考えたのですか？

A：二つ目は相手にもものを勧める時に使う言葉です。「何もありません」とか「つまらない物ですが」などの言い方は、なんだか他人行儀でよそよそしいと感じたからです。「これ、とても

いいよ。」と言った方が自然な感じがします。

Q：そうですね。会話する時は、形の決まった言い方のよさを生かしながら、相手の感じ方に目を向けて言葉を使い分けることが必要だと言えますね。

A：はい、その通りだとおもいます。

くり返しになりますが、そういう事がよく分かったつもりでいても、実際に余裕がなくなるという事態が、いつ起こってもおかしくないのだと学びました。

Q：なるほど。

では、いったいそんな時にはどうしたら良いと思いますか？

A：私は、二つのことを考えました。

一つ目は、人々を信じる気持ちを大切にすることです。何もできなくて、つまらない自分でも、支えてくれる大勢の人々がいるから心配いらないのだと信じて生きていく事です。

二つ目は、さりげない言葉が持つ力に気づく事です。挨拶や相槌などは、余裕のない時こそ重要だと学びました。

Q：アレ!? これって、平成22年3月に実施された秋田県立高校入試の「国語」のヒアリング問題にそっくりじゃないですか？（\*）

A：ホーッ！今回が初回だという「国語」のヒアリングテストにそっくりなのですね。

そうだとしたら「言葉の力」について受験生の皆さんと問題を共有できて幸せな事です。

...でも「国語」のヒアリングテストというのはいったいどうなのでしょう。この先々を考えると、言葉を失いそうです。（\*\*）

\* 平成22年3月の秋田県高校入試問題の「国語」の第一問に「聞くこと」に関する検査として、ヒアリングテストが初導入されました。配点は100点満点中12点。全国的に試行錯誤中だということです。

\*\* 人の話をよく聞かないけれど素晴らしい人というのは、どの業界にも沢山います。それに、よく聞いていなくても、この手の問題は解ける人も沢山います。  
(月影の狸)